

薬草園かわらばん

皆さんちょっと覗いてみませんか？
草木に囲まれ心も体もリフレッシュ・・・



2017年
9月13日
第24号



ニラ（ユリ科）

宿根多年草で広くアジアに分布、栽培され、日本では古く900年頃から栽培されています。乾燥した葉はキュウサイ（菰菜）という生薬となり、イオウを含む含有精油類の硫化アリルが含まれ、これが体を温めると同時に血液の循環を良くする効果があると言われています。果実の中には黒い種子が6個あり、乾燥したものがキュウシ（菰子）と呼ぶ生薬になります。頻尿、腰気に用いられます。種は花の終わった9月に採取して用います。年、数回刈り取りできるので家庭菜園向きです。また、花茎も食用にします。

アイ（タデ科）

古くに中国から渡来し、藍染の原料として栽培されてきた1年草。徳川中期以後、徳島県での栽培が盛んになりました。7月頃、開花前に採取した葉を2cm位に刻んで乾燥させ、「寝床」という室内で積み重ね水で濡らすと発酵して土のかたまりのようになります。これをスクモといい、臼の中でつき固めて藍玉にします。藍玉の中にあるインドキシルは水に溶解して藍汁となり、布を入れて空気を吹き込むようまぜていくうちにインディゴが出来て、布が藍色に染まります。葉はランヨウ（藍葉）という生薬になり、虫刺されや切り傷の消毒に用います。また、乾燥した果実ランジツ（藍実）は、解熱、解毒に用います。

今、こんな草木がたのしめます
待ってマース！！